

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援らじわん			
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15世帯	(回答者数)	8世帯
○従業者評価実施期間	年 月 日		～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(保育士・作業療法士・理学療法士・看護師・児童指導員)を配置し、多職種の視点から支援が行える	利用者様の成長に必要と思われる活動を選択して行っている。また、集団活動では、身体活動のみならず、感覚の入力や季節を取り入れた活動など、専門職による5領域を意識した活動を取り入れている。個別と集団支援の両輪により、利用者様の成長発達支援を実施している。	利用者様の変化を観察し、きめ細かくプログラムを発展させていくために、評価用紙やツールを使用した評価を行い、変化を職員で共有していく。
2	医療的ケア児の受け入れ	看護職員を多めに配置し、安心して受け入れられる体制を確保するとともに、可能な範囲で利用時間延長への対応を行っている。	看護職員1人当たりの生産性を高めるとともに、必要に応じて増員も検討していく。
3	ご家族等へのサポート	電話やメール等での相談があった場合には、時間調整を行いながら、ご家族の思いに寄り添い、一緒に方向性を導き出せるように面談等を行っています。また、連絡帳のみならず、対面で話す機会を増やすよう心がけている。	より、多くの利用者様について、関係機関との連携を実施し、どの場面においても、統一した支援ができるように工夫していく。 また送迎時に園の担任とのコミュニケーションを増やすようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度入職した職員や時短のパート職員との情報共有。	面談や担当者会議に参加する職員が限定されていたり、会議・ミーティング内容の伝達が不十分なこともある。	担当者会議は順番に参加したり、職員間の情報共有には、職員申し送りノートを活用しつつ、都度伝達していく以外の方法も模索していく。
2	保護者同士や地域住民との交流、ヘアトレが十分に行えていない。	医療的ケア児の利用が多く、容易に体調が悪化するリスクが高いため、積極的に外部との交流は行いにくい。また、駐車場が狭かったり、長時間利用のお子様もいるため、会議やミーティング、研修時間の十分な確保が難しい。	希望があれば企画を検討していく。
3			